

検土杖で深さ約 80cm まで土のサンプルを採取すると測定ポイントでは深さ約 25cm～30cm より深い地点は粘性のある赤土（地山）でした。この赤土は不透水層と思われるので簡易透水検査(W スコップ孔)で確認しました。

③透水確認（7頁土壌調査イメージ図参照）

検土杖で採取した赤土の状況から透水性(水はけ)が悪いと推測されたので、透水試験用の孔をWスコップにて40cmまで試掘すると水が湧き出て滞留した。結果、この地点では透水試験器をセットする必要もなく透水性はゼロとなり、排水不良の状況であることが確認出来ました。



水が湧き出て滞留する状況であり、赤土の不透水層の上を雨水等が流れており、後述するが土壌の傾斜の関係で一部がマツ周辺に集まり、滞留し易いと思われるのでこの排水対策（止水対策含）が必要です。

④土質確認

掘取った土壌を確認すると深さ 30cm から下は赤土の層（地山）であった。



赤土は粘性が強く、指で挟むとこよりの様な細い状態になります。この状態の土壌には空気の層も少なく根は伸長できません。結果、根が伸びる層は表土から 25cm～30cm 以内になります。（但し、計測ポイントのみの状況）

⑤ pH・EC



a 深さ 10cm	pH 6.70	EC 1.04ms/cm
b 深さ 40cm	pH 5.79	EC 0.40ms/cm
c 粉碎した砂利	pH 7.24	EC 1.86ms/cm

pH は特に問題はありません。又、EC 値が高いのは、表土の採石と樹勢を高める為の直近の施肥と水が集まりやすい構造が影響していると思われます。

⑥根系確認(7頁土壌調査イメージ図参照)



数年前に枯れたマツの根

今年最近枯れたマツの根(φ 1cm)

樹勢に一番影響が出るのが根系の状況です。確認した根のうち、モミジは健全な根が伸長していましたが、マツの根は2種類あり、1本は数年前に枯れており腐朽が進行、もう1本(直径 1cm)は、数ヶ月以内に枯れたと思われる根であった。この様な状況から、地下部では根の枯れが一部進行していると思われます。赤土の層に発根はありませんでした

⑦砂利敷き詰め部の状況



砂利敷き詰め部の下は更に目の細かい御影碎石の混じった粗い砂の状況でした。

通気、通水性は問題ないと思われませんが、敷き詰める深さにより伸長しているマツの根に影響が出ている場合があります。